

脱穀機の補修

(縮尺;フリー)

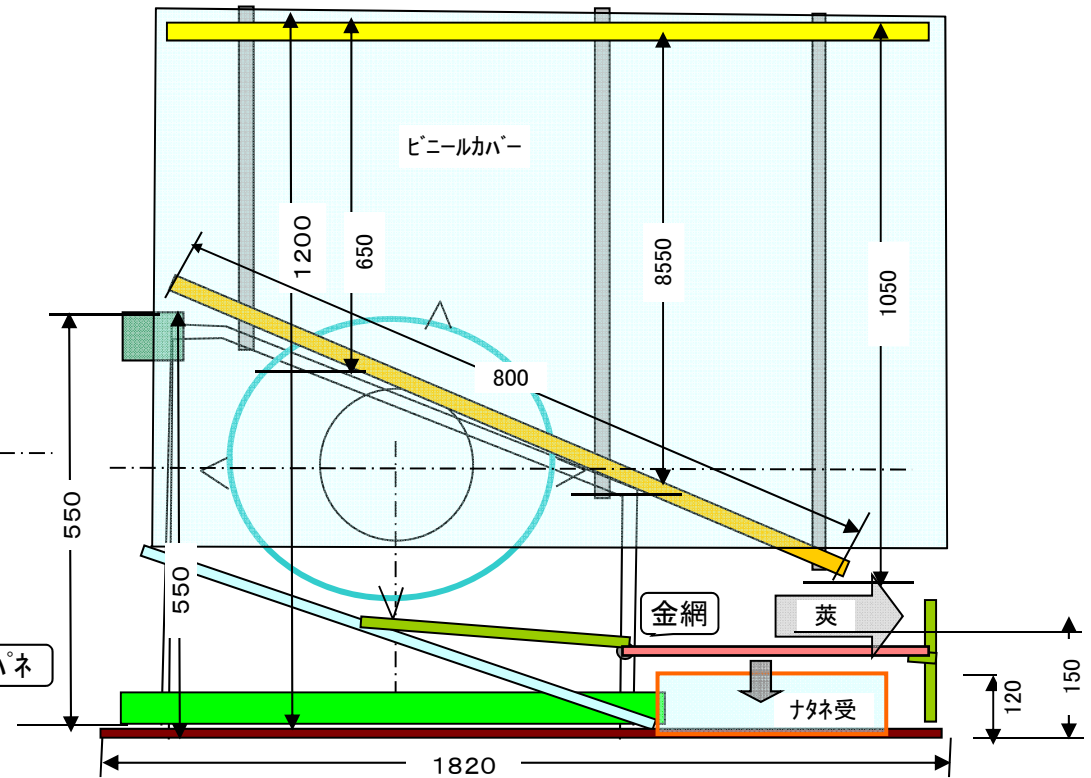
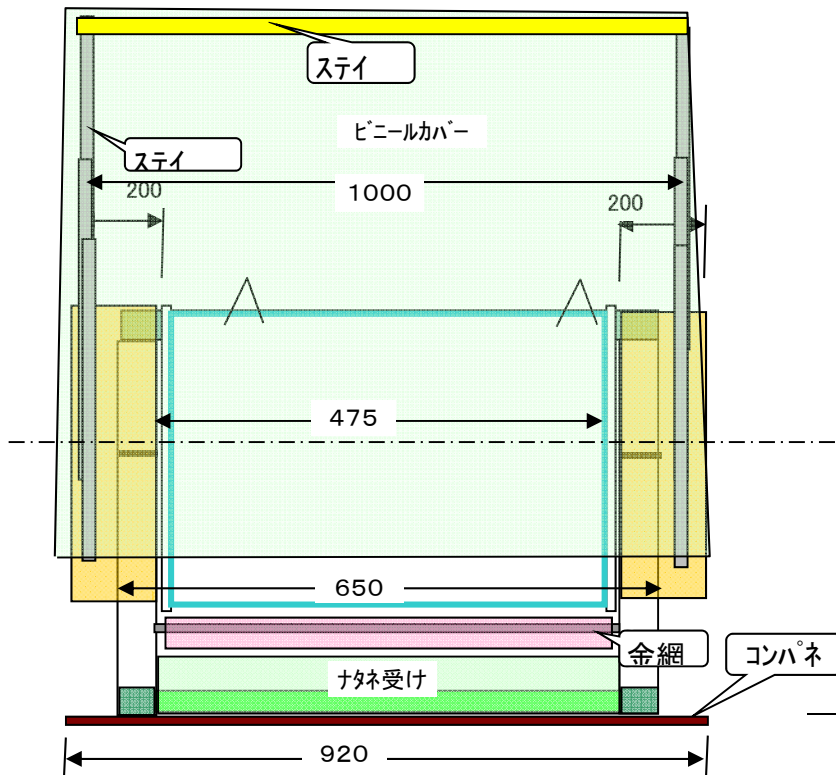
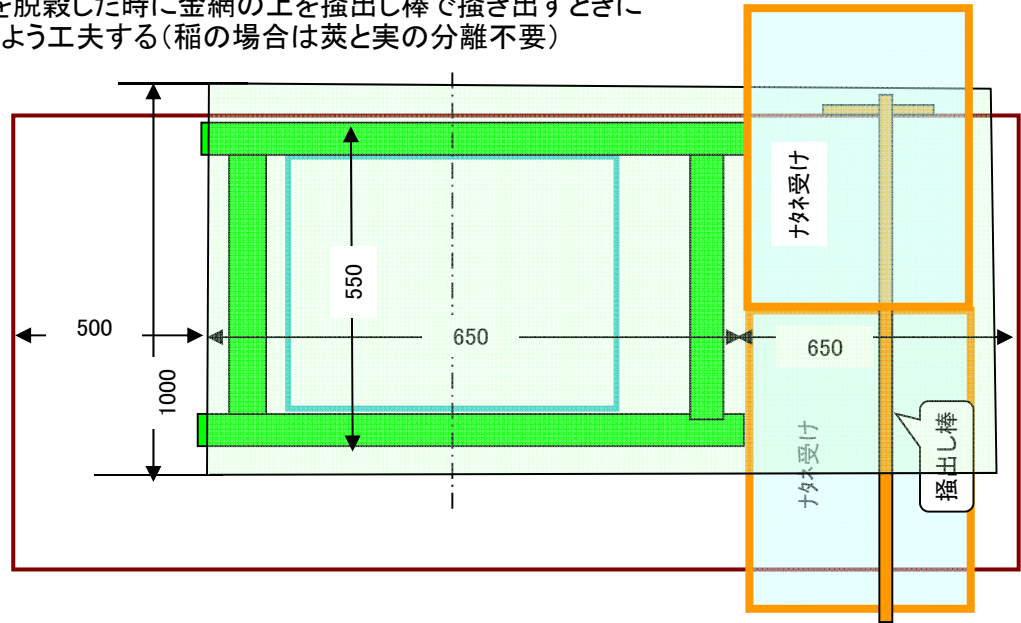
- 1) ベース板; (200 * 800) ⇒ 2個 ⇒ 200 * 1800 1枚 698
- 2) 支柱(ネジ材) (M10*1000mm) ⇒ 6本 1194
- 3) 角材 (30 * 40 * 1800) ⇒ 6本 1500
- 4) M10ナット ⇒ (支柱=36個; 固定用=32個) ⇒ 68個
- 5) ボルト (M10 * 100mm) ⇒ 8本
- 6) ビニール (550 + 1000 * 2) ⇒ 2000 * 2600 2000
- 7) 金網 (4mm目) = 800 * 1500
- 8) 塗料 (鉄部・木部・防錆) 4000

費用実績 (区分は概略)

- ① 塗料; ¥3,700 (小屋塗料3,500円は除外)
- ② 金物; ¥7,536
- ③ 木材; ¥4,160
- ④ その他(ビニール等); ¥1,400
- ⑤ グリス・マシン油; ¥1,008
- 合計 ¥17,804

①ビニールカバーは脱穀機本体より300mmほど広くして作業性を良くする

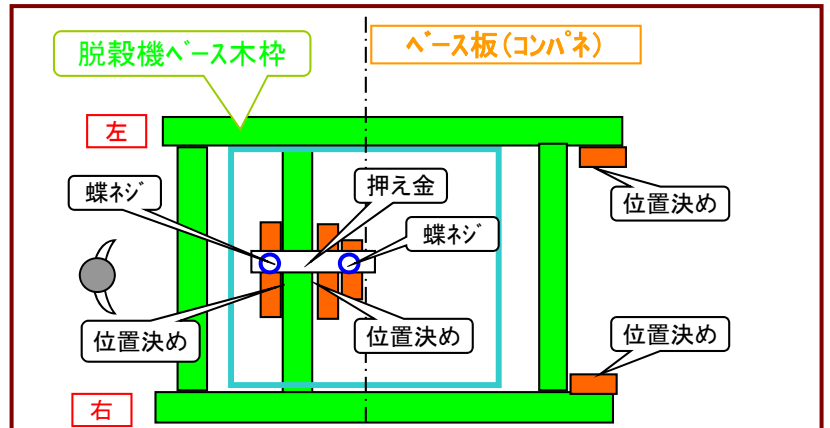
②ナタと莢を脱穀した時に金網の上を掻出し棒で掻き出すときに分離するよう工夫する(稲の場合は莢と実の分離不要)



組立手順

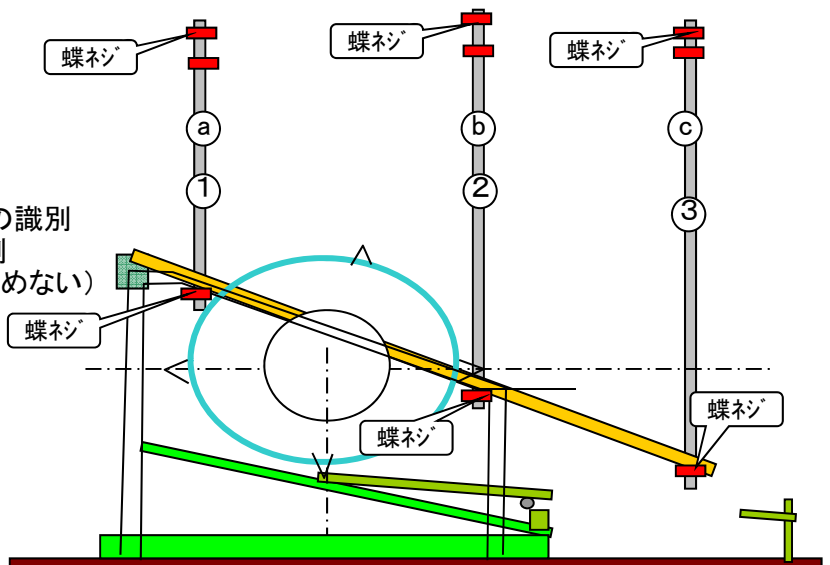
1) ベース板(コンパネ)に脱穀機本体を取り付ける(右図)

- ① ブルシートを敷き、その上にベース板を置く
- ② 位置決め3箇所に合わせて脱穀機をセットする作業のポイント
 - * 押え金を脱穀機ベースに干渉しない位置にする
 - * 脱穀機本体をベース板の右側の縁に寄せて置くと、位置決めが容易
- ③ 脱穀機を位置決めしたら、手前の蝶ネジを外し、押え金をホルトに通し蝶ネジで締め付け、ベース板に脱穀機を固定する



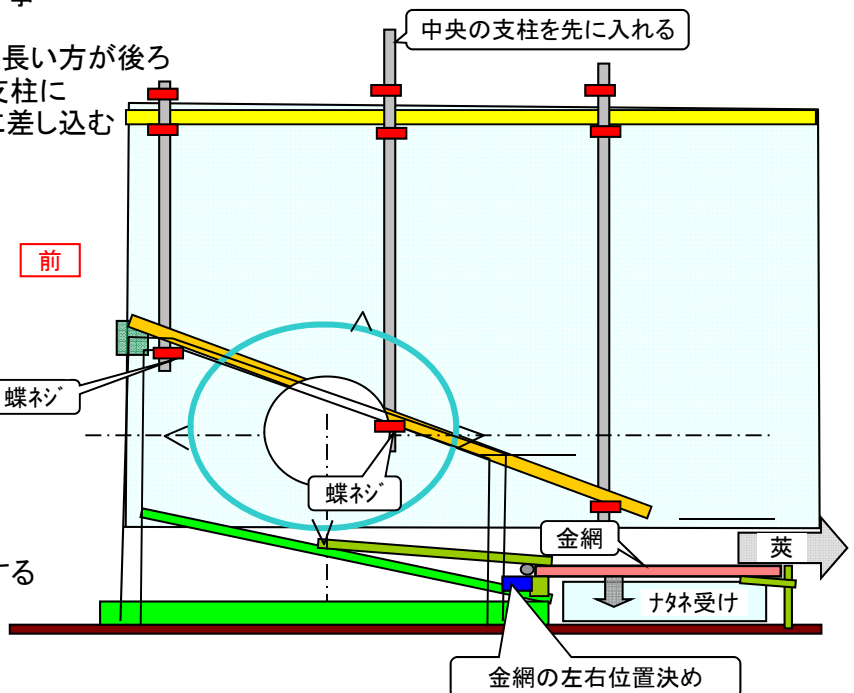
2) ビニール幌取付用の支柱(全ネジ)6本を立てる

- ① 6本の全ネジ支柱の下側の蝶ネジを外し、取り付け板の穴に差込み立てる作業のポイント
 - * 右支柱は①②③の識別、左支柱はa・b・cの識別
 - * ダブルナットの位置が端面より長い方が下側
 - * 蝶ネジは、軽く手で締め付ける程度(工具で締めない)



3) ビニール幌を脱穀機に掛ける

- ① 6本の全ネジ支柱の上側の蝶ネジを外す
- ② ビニール幌の木枠の穴6箇所に、支柱ホルト6本を合せ差し込む作業のポイント
 - * 木枠の穴位置にビニールが塞がっていない事(ビニール幌を傷つけない為)
 - * 木枠の穴位置が、端面より短い方が前、長い方が後ろ
 - * 中央の支柱が長いので、最初、中央の支柱に差し込み位置決めし、次に前後の支柱に差し込む



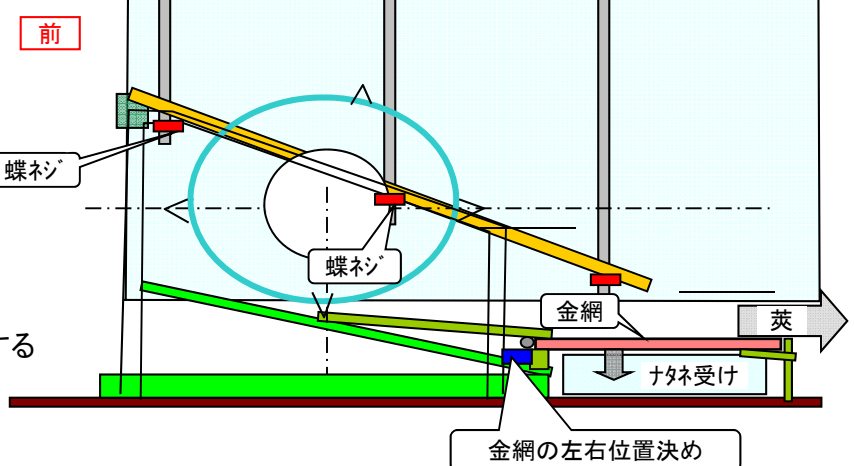
4) 上部の蝶ネジを6箇所を取り付け締め付ける

5) 後部のナタ受け2個と篩金網を取り付ける

- 作業のポイント
 - * ナタ受け2個をベース板の上に置く
 - * 篩金網をナタ受けの上にセットする
 - この時、篩金網の左右位置決め金網木枠の開口部に合わせる
 - * ナタ受けの位置は、篩金網の端面と合わせる

6) ビニール幌の左右及び後ろを降す

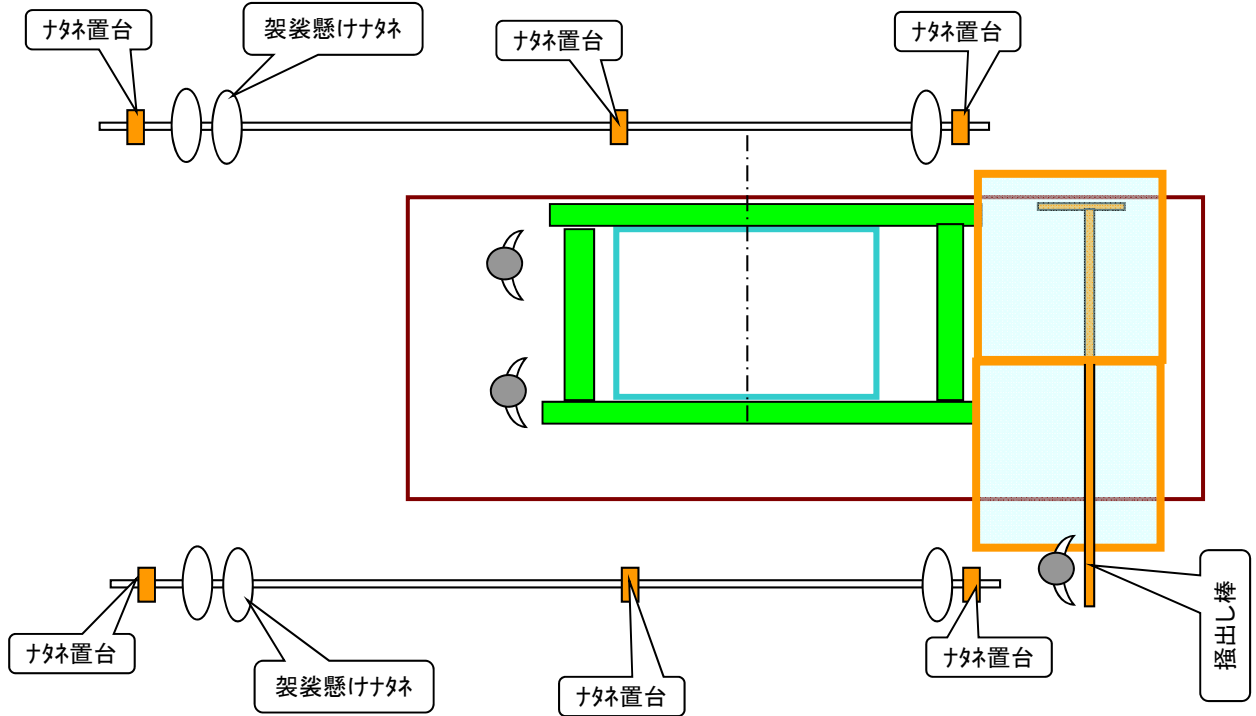
- * ビニール幌前面の下端は、止め金に固定する



脱穀機の作業手順・及びナタネの結束と袈裟懸け作業について

1. 脱穀機の作業手順

1) 作業配置→脱穀作業担当2名; 篩掻き出し作業担当1名の3名体制



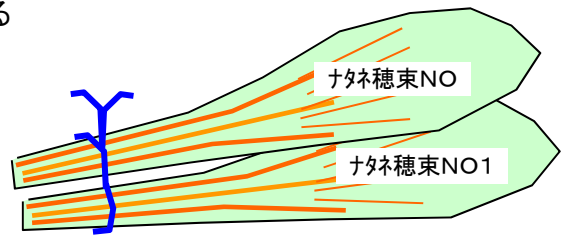
2) 作業手順

- ① ナタネ乾燥ハウスより袈裟懸けしたままで、3名(両端2名及び中央1面)で運び出し、脱穀機傍の両側のナタネ置台に置く(脱穀作業2名と掻き出し作業担当1名の3名で運搬)
* ナタネが落下しないように静かに扱う
- ② 脱穀作業(2名)
* 2名作業は少し窮屈だが作業能率UPのため
- ③ ナタネ掻き出し作業(1名)
脱穀作業中は常時掻き出し作業を行う(ナタネと莢の分離を確実にする為)
* 脱穀されたナタネと莢が、篩金網に落ちてきたら、篩金網の上で、掻き出し棒で軽く叩いたり、かき混ぜたりして、篩からナタネをナタネ受けへ落とし、莢は掻き出し棒で金網の外に書き出す。
* 篩金網の上に、脱穀したナタネと莢が溜まらないように莢は常時掻き出す
* ナタネ受けに溜まったナタネは横に引き出し、ホリの樽に移す
* 分離した莢はブルーシートの外の莢捨て場に搬出する

2. ナタネの結束と袈裟懸け作業

1) ナタネの結束作業要領 右図参照

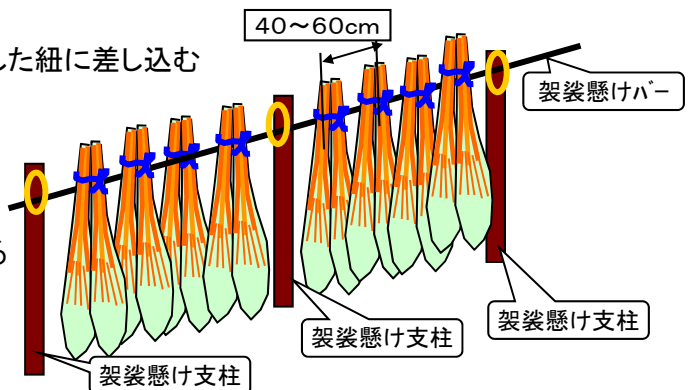
- ① 結束紐は肥料空き袋を20~30mm幅に切断し使用
- ② 刈り取ったナタネを一握り(4~7本)を1回結びをし
"ナタネ穂束NO1"を作り、次に同量のナタネを掴み
"ナタネ穂束NO2"を結び目に重ねて巻き付ける
- ③ NO2の結束は紐を捻り拗って、巻いた紐を結束した紐に差し込む
(φ19mmのハウス直管を袈裟懸けバーに



2) 結束したナタネの袈裟懸け作業

(φ19mmのハウス直管を袈裟懸けバーに使用した場合)

- ① 袈裟懸けの間隔は約40~60cm
- ② 袈裟懸け台で結束ナタネを掛け終わったら
袈裟懸けバー毎持上げ運び、乾燥ハウスに搬入する
- ③ 乾燥ハウスのハウス直管の梁から紐で吊り下げる
持ち運びと吊り下げ作業は4名1組で作業



脱穀機の補修

- ①ビニールカバーは脱穀機本体より300mmほど広くして作業性を良くする
- ②ナタと莢を脱穀した時に金網の上を掻出し棒で掻き出すときに分離するよう工夫する(稲の場合は莢と実の分離不要)

